

内閣府男女共同参画局  
第5次基本計画策定専門調査会  
基本構想WG 第2回  
令和2年2月26日

雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和  
**母親の労働参画と父親の育児参画**  
～家庭における育児役割と経済的役割～

労働政策研究・研修機構（JILPT）

主任研究員 池田心豪

# 要旨

## 1 育児期の女性の就業と男性の育児

- ◎パート・派遣の就業継続率低い。正社員では勤務時間を理由とする出産退職も。
- ◎父親は残業が少ないほど子どもと遊ぶ頻度が多く、  
妻がフルタイム就業の男性は、子どもの身の回りの世話をする頻度も多い。

## 2 稼得役割と育児役割

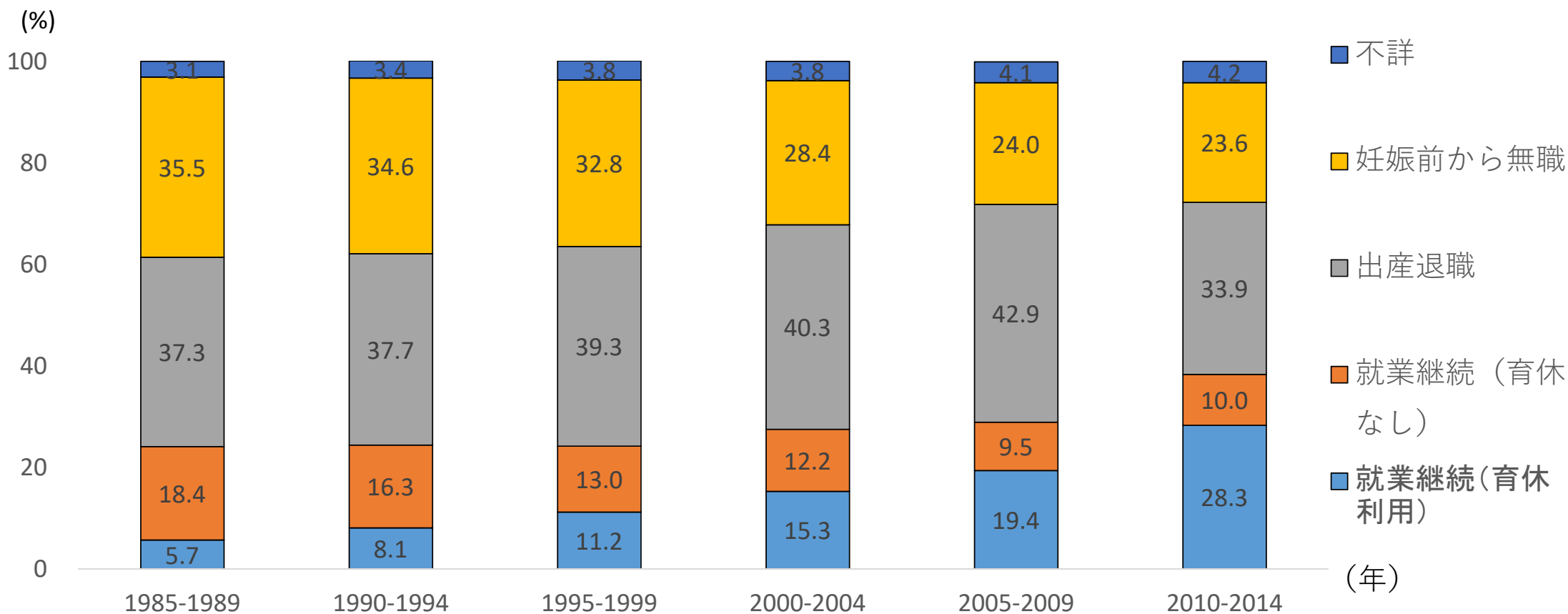
- ◎女性の労働参画は必ずしも家計を支える育児役割を意味しない。
- ◎男性に稼得役割を期待する女性は無業・パートの割合が高い。男性稼得役割を支持する男性は残業日数が多く、子どもの身の回りの世話をする頻度は低い。

## 3 女性が働く産業の課題

- ◎女性労働者割合の高い産業は長時間労働と非正規雇用の二極化が顕著。
- ◎女性労働者割合の高い産業は製造業に比べて生産性が低く稼ぎにくい。

# 1 育児期の男女の働き方と男性育児

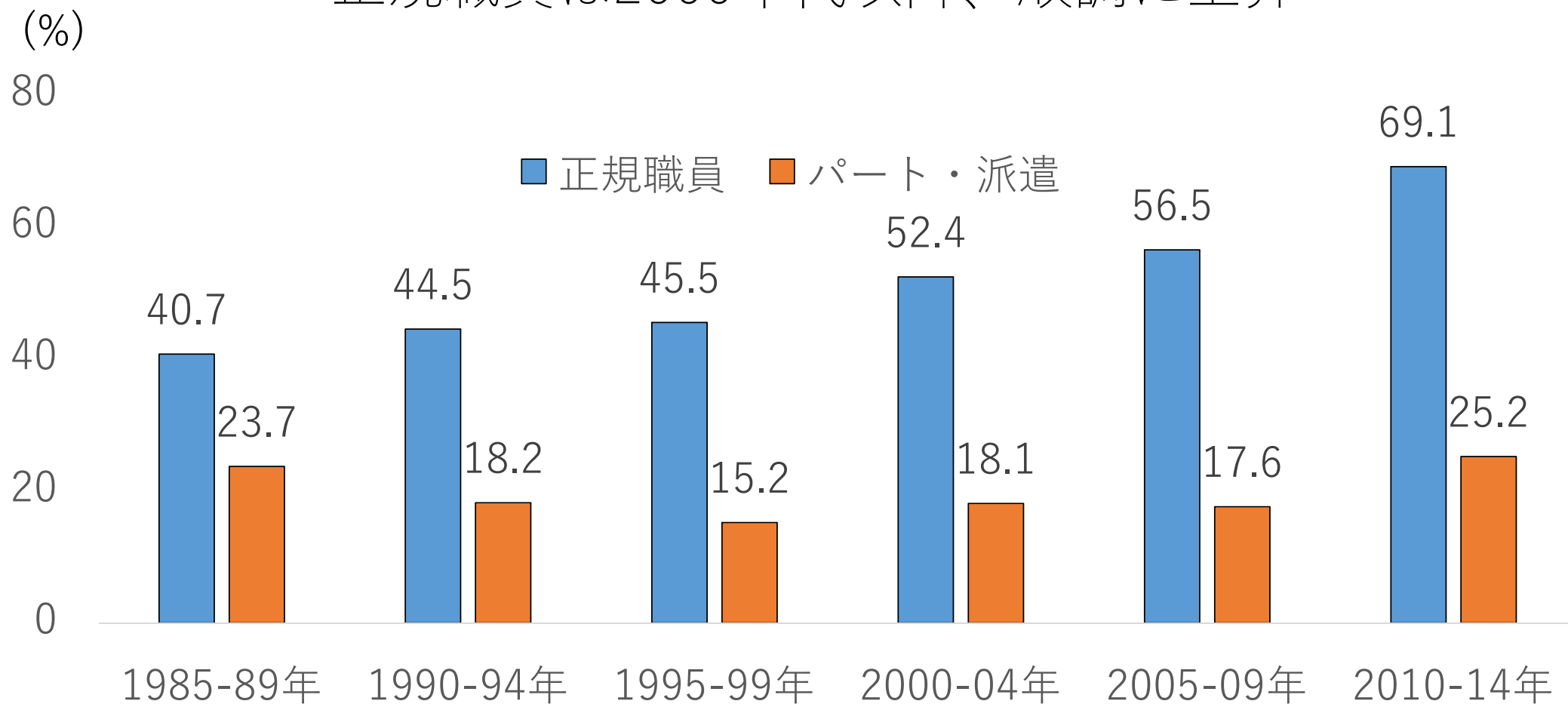
## 子の出生年別 第1子出生前後の母の就業経歴 ～依然退職は多いが就業継続も増加傾向～



資料出所：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」(2015年)

# 1 育児期の女性の就業と男性の育児

## 雇用形態・子の出生年別 第1子出生前後の母の就業継続率 ～正規職員は2000年代以降、順調に上昇～



資料出所：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」(2015年)

# 1 育児期の女性の就業と男性の育児

## 妊娠・出産を機に退職した理由・両立が難しかった理由（正社員） ～両立の難しさの主な理由は勤務時間と体力、職場の雰囲気～

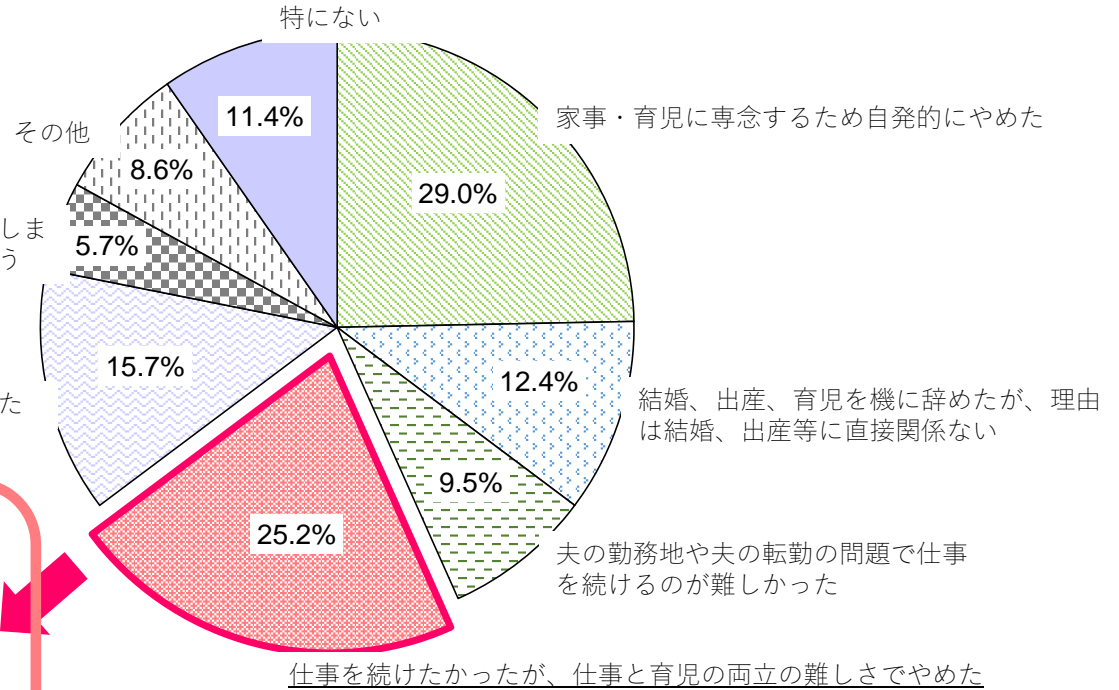
【妊娠・出産前後に退職した理由】

子を持つ前と仕事の内容や責任等が変わってしまい、やりがいを感じられなくなった（なりそうだった）

解雇された、退職勧奨された

### 両立が難しかった具体的理由

- ①勤務時間があいそうもなかった（56.6%）
- ②自分の体力がもたなさそうだった（39.6%）
- ③職場に両立を支援する雰囲気がなかった（34.0%）
- ④子どもの病気等で度々休まざるを得なかった（26.4%）
- ⑤会社に産休や育休の制度がなかった（22.6%）
- ⑥つわりや産後の不調など妊娠・出産にともなう体調不良のため（20.8%）
- ⑦保育園に子どもを預けられそうもなかった（預けられなかった）（17.0%）

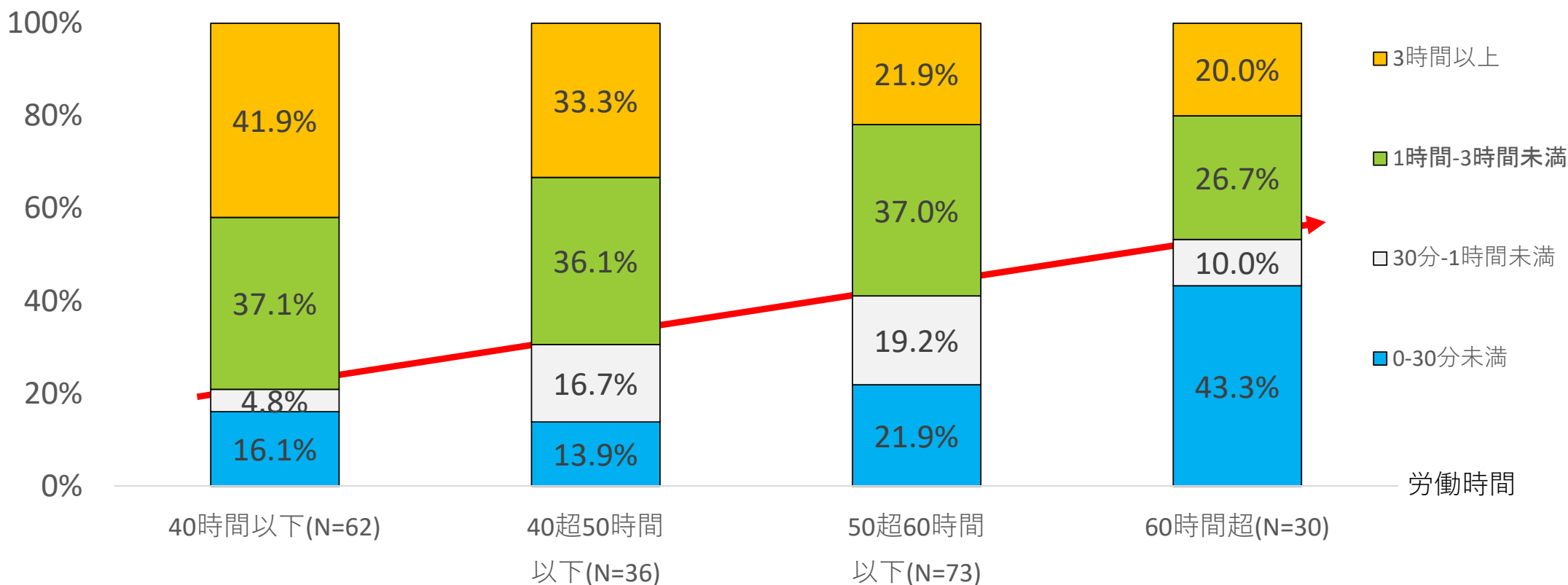


注)就業形態は正社員(末子妊娠時)

# 1 育児期の女性の就業と男性の育児

## 週実労働時間別 平日に末子と過ごす時間 (6歳未満の子と同居する正規雇用の父親)

～週労働時間50時間超は子どもと過ごす時間が少ない～

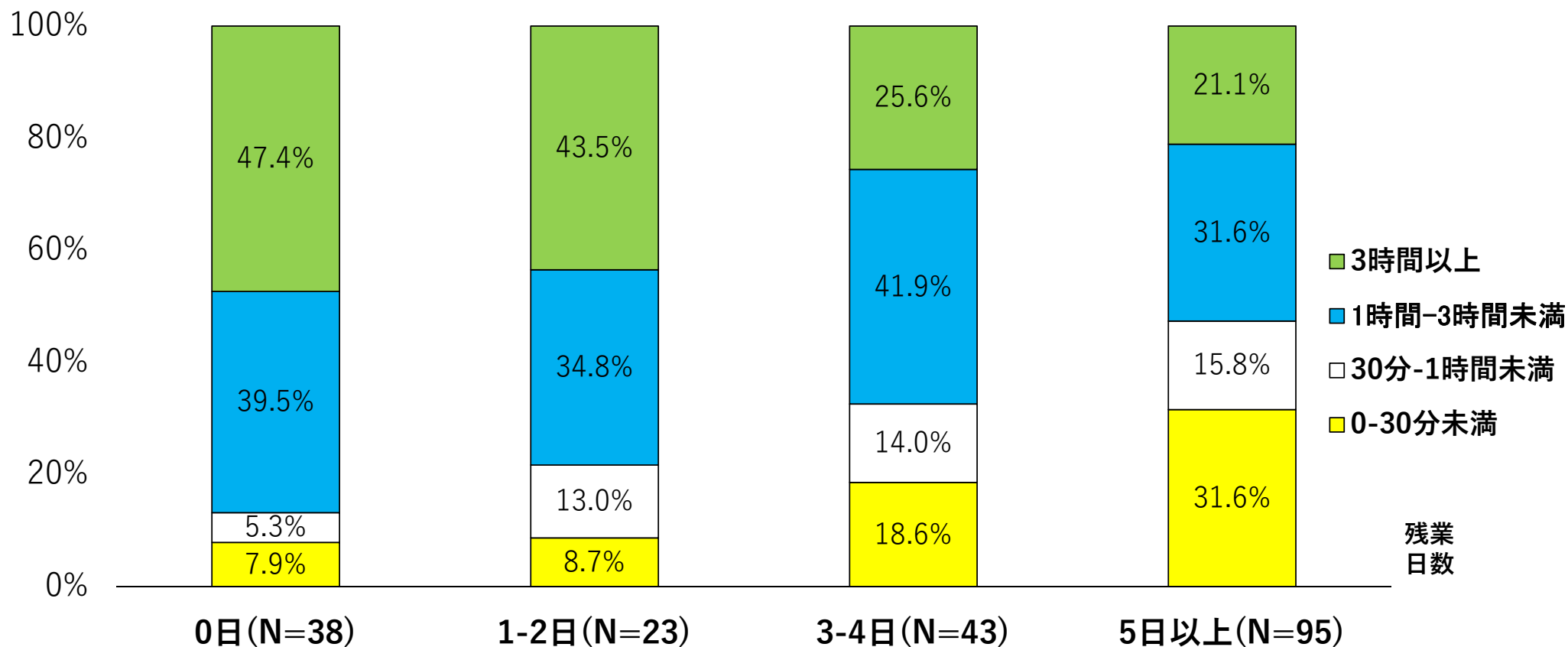


資料出所：JILPT「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)

# 1 育児期の男女の働き方と男性育児

本人の週残業日数別 1日に末子と過ごす時間（平日）  
（6歳未満の子と同居する正規雇用の父親）

～残業が週に3日以上の場合には子どもと過ごす時間が短い～



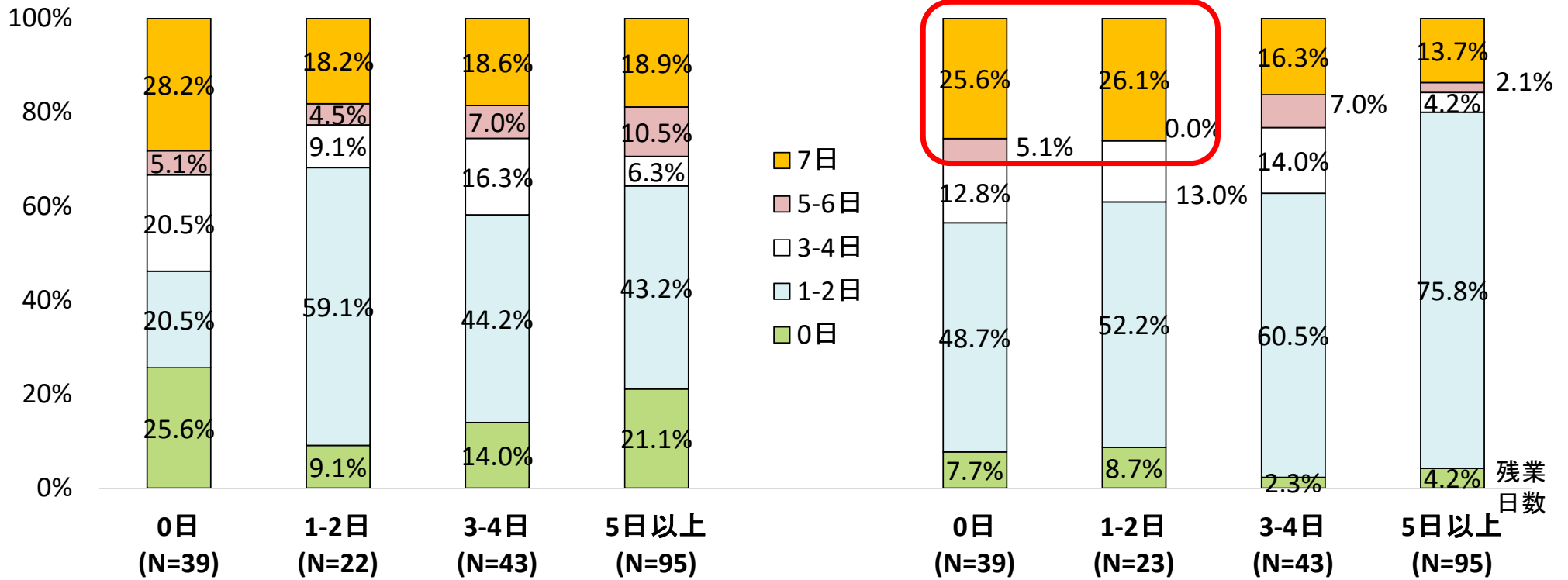
資料出所) 労働政策研究・研修機構「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)

1 育児期の女性の就業と男性の育児

本人の週残業日数別 1週間の末子育児頻度  
 (6歳未満の子と同居する正規雇用の父親)  
 ～残業日数が少ない場合は子どもと遊ぶ頻度が増える～

身の回りの世話

子どもと遊ぶ



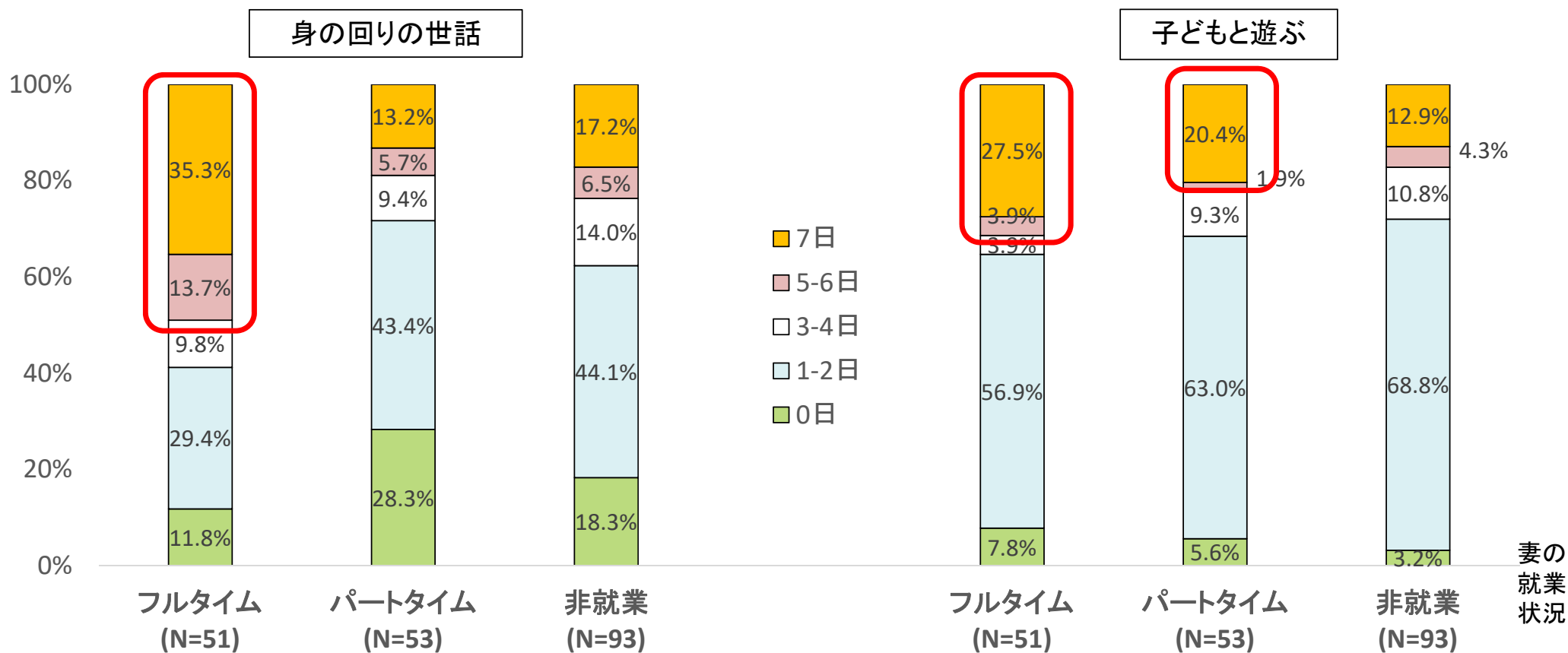
資料出所) 労働政策研究・研修機構「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)



# 1 育児期の女性の就業と男性の育児

現在の妻の就業状況別 1週間の末子育児頻度  
 (6歳未満の子と同居する正規雇用の父親)

～妻がフルタイム就業の場合は「身の回りの世話」の頻度が多い～



資料出所) 労働政策研究・研修機構「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)

## 2 稼得役割と育児役割

# 自身の家事・育児と仕事の望ましい関係 ～女性は正規雇用でも家事・育児優先～

男女・雇用形態別 自身が望む家事・育児と仕事の関係（6歳未満の子と同居する男女）

	仕事に専念	家事・育児もするが、仕事優先	家事・育児も仕事も同程度	仕事もするが、家事・育児優先	家事・育児に専念	その他	わからない	N
男性	7.4%	<b>40.1%</b>	33.9%	11.3%	1.9%	1.2%	4.3%	257
女性	0.5%	2.0%	28.6%	<b>53.8%</b>	13.1%	1.0%	1.0%	199
正規雇用・男性	5.0%	<b>41.2%</b>	<b>33.7%</b>	12.1%	1.5%	1.5%	5.0%	199
正規雇用・女性	1.8%	1.8%	<b>35.1%</b>	<b>54.4%</b>	5.3%	0.0%	1.8%	57
パート・女性	0.0%	7.5%	25.0%	<b>55.0%</b>	10.0%	2.5%	0.0%	40

資料出所) 労働政策研究・研修機構「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)

## 2 稼得役割と育児役割

# 望ましい夫婦の経済的役割 ～女性が仕事をしていても稼得役割は夫に期待～

男女・雇用形態・女性の家事・育児と仕事の関係についての意識別 望ましい夫婦の経済的役割意識（6歳未満の子と同居する男女）

	夫の収入のみ	夫が主だが妻の収入も	夫婦同等	妻を主だが夫の収入も	妻の収入のみ	わからない	N
男性(N=254)	<b>43.3%</b>	<b>42.1%</b>	8.3%	0.0%	0.8%	5.5%	254
女性(N=198)	<b>52.0%</b>	<b>35.4%</b>	10.1%	0.0%	0.5%	2.0%	198
▼男女・雇用形態別							
正規雇用・男性	42.9%	44.4%	6.6%	0.0%	1.0%	5.1%	198
正規雇用・女性	<b>29.8%</b>	<b>40.4%</b>	24.6%	0.0%	1.8%	3.5%	57
パート・女性	62.5%	32.5%	2.5%	0.0%	0.0%	2.5%	40
▼女性が自身が望む家事・育児と仕事の関係							
家事・育児も仕事も同じくらいする	<b>29.8%</b>	<b>42.1%</b>	21.1%	0.0%	1.8%	5.3%	57
仕事もするが、家事・育児を優先する	56.1%	36.4%	6.5%	0.0%	0.0%	0.9%	107
仕事はしないで、家事・育児に専念する	80.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25
▼男性が配偶者に望む働き方							
家事・育児も仕事も同じくらいする	<b>20.6%</b>	<b>52.4%</b>	22.2%	0.0%	1.6%	3.2%	63
仕事もするが、家事・育児を優先する	41.9%	50.8%	4.8%	0.0%	0.0%	2.4%	124
仕事はしないで、家事・育児に専念する	88.1%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	42

2 稼得役割と育児役割

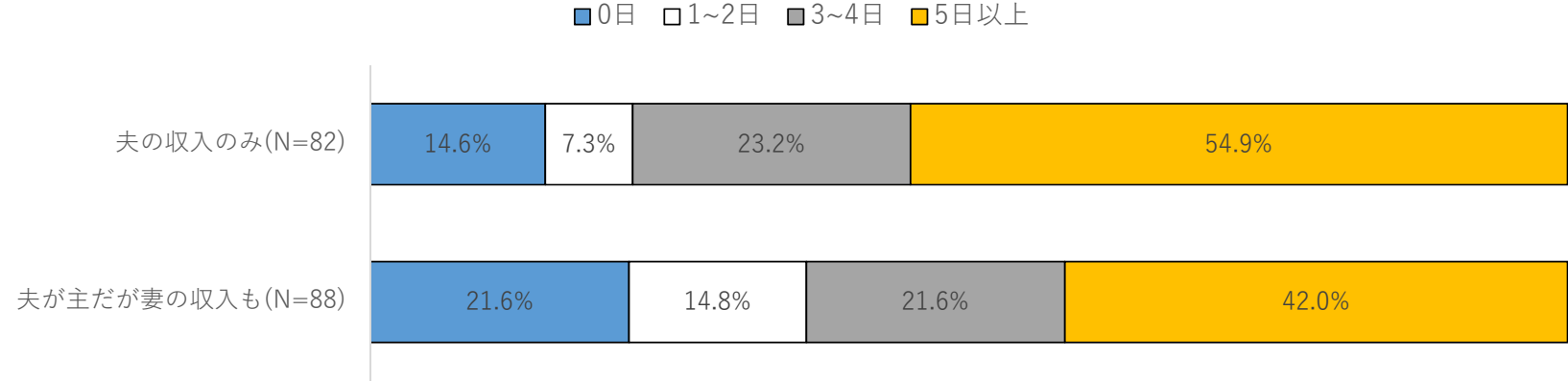
# 望ましい経済的役割と男女の働き方

～男性稼得役割を支持する女性はパート・無業の割合が高く  
男性は週5日以上の残業割合が高い～

望ましい夫婦の経済的役割意識別 女性の就業形態 (6歳未満の子と同居する女性)

	正規雇用	パート	契約社員	派遣社員	自営業等	無業	N
夫の収入のみ	16.5%	<b>24.3%</b>	2.9%	3.9%	6.8%	<b>45.6%</b>	103
夫が主だが妻の収入も	<b>32.9%</b>	18.6%	5.7%	0.0%	4.3%	<b>38.6%</b>	70

望ましい経済的役割意識別 男性の週残業日数  
(6歳未満の子と同居する正規雇用の男性)



「夫婦同等」「妻の収入が主」「妻の収入のみ」「わからない」はサンプルが小さいため除外

資料出所) 労働政策研究・研修機構「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)

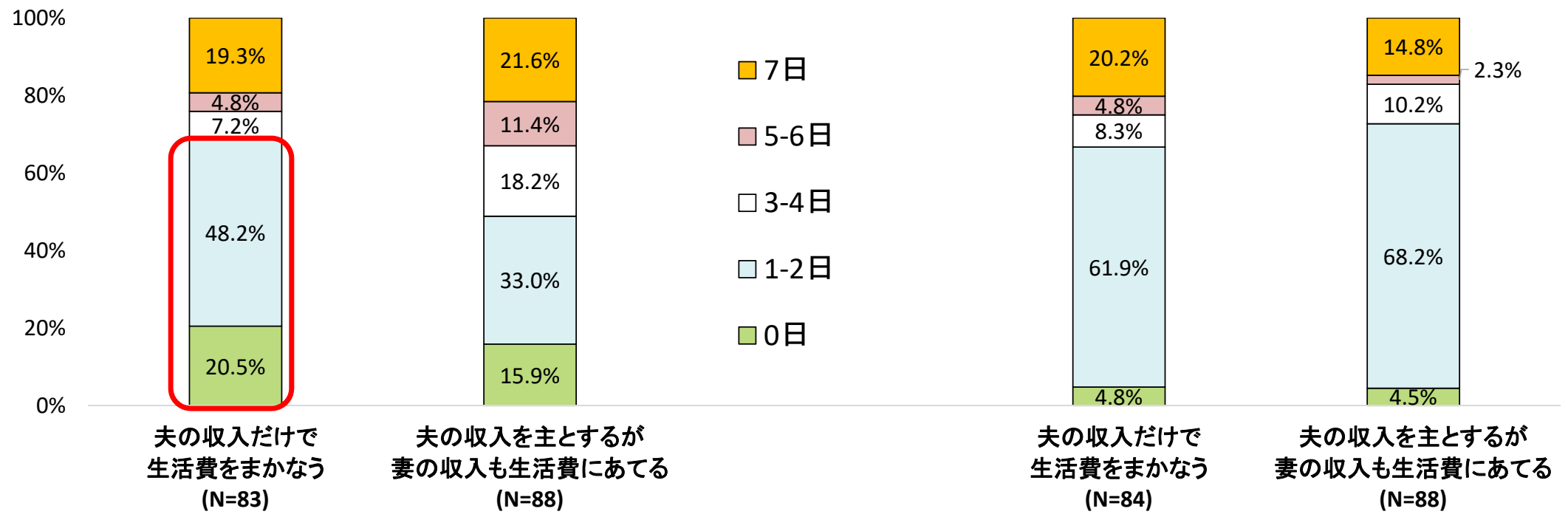
## 2 稼得役割と育児役割

望ましい経済的役割意識別 1週間の末子育児頻度  
 (末子6歳未満の正規雇用)

～妻と家計を分担する意識のある男性は  
 子どもの身の回りの世話をする頻度が多い～

身の回りの世話

子どもと遊ぶ

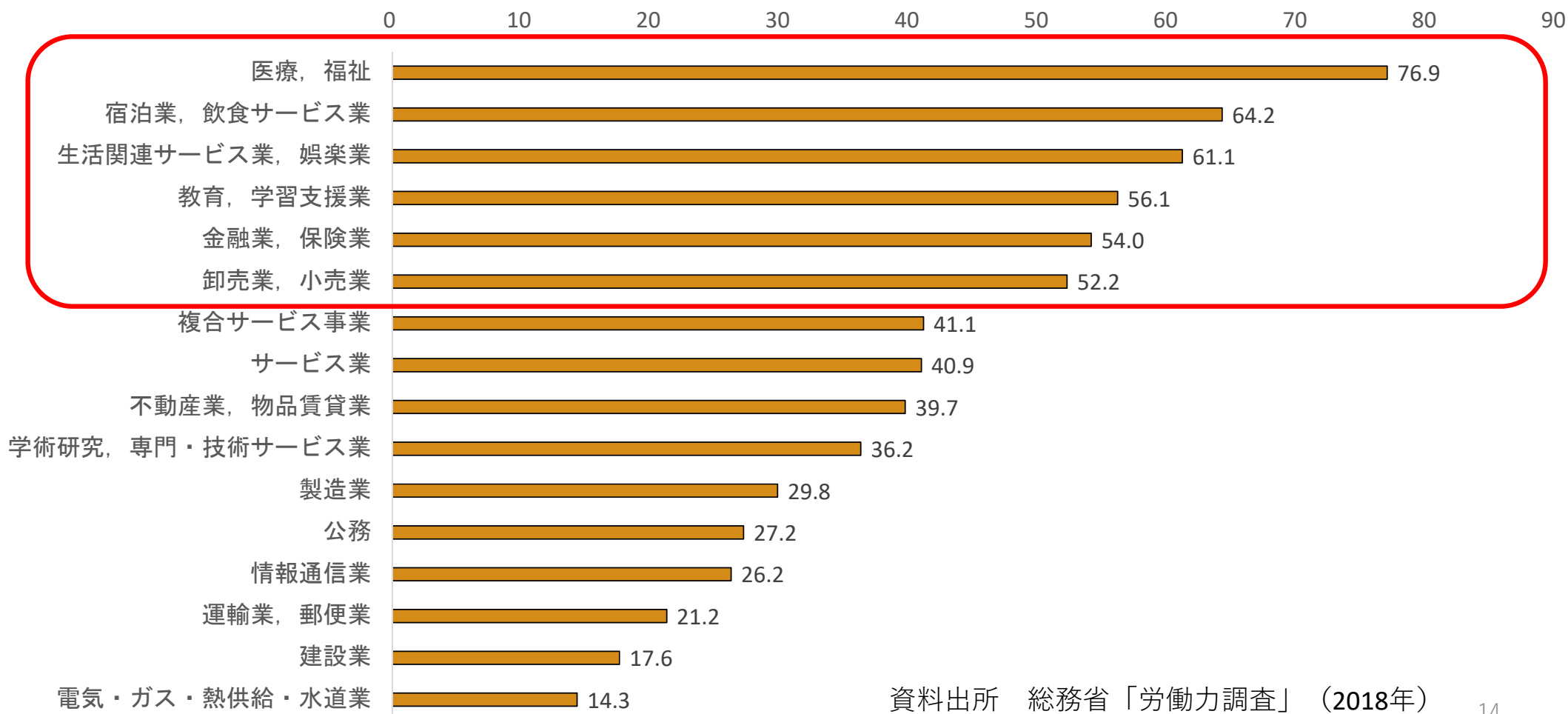


資料出所) 労働政策研究・研修機構「職業キャリアと生活に関する調査」(2015年)

### 3 女性が働く産業の課題

## 産業別 常用労働者に占める女性比率 ～製造業に比べて非製造業で高い～

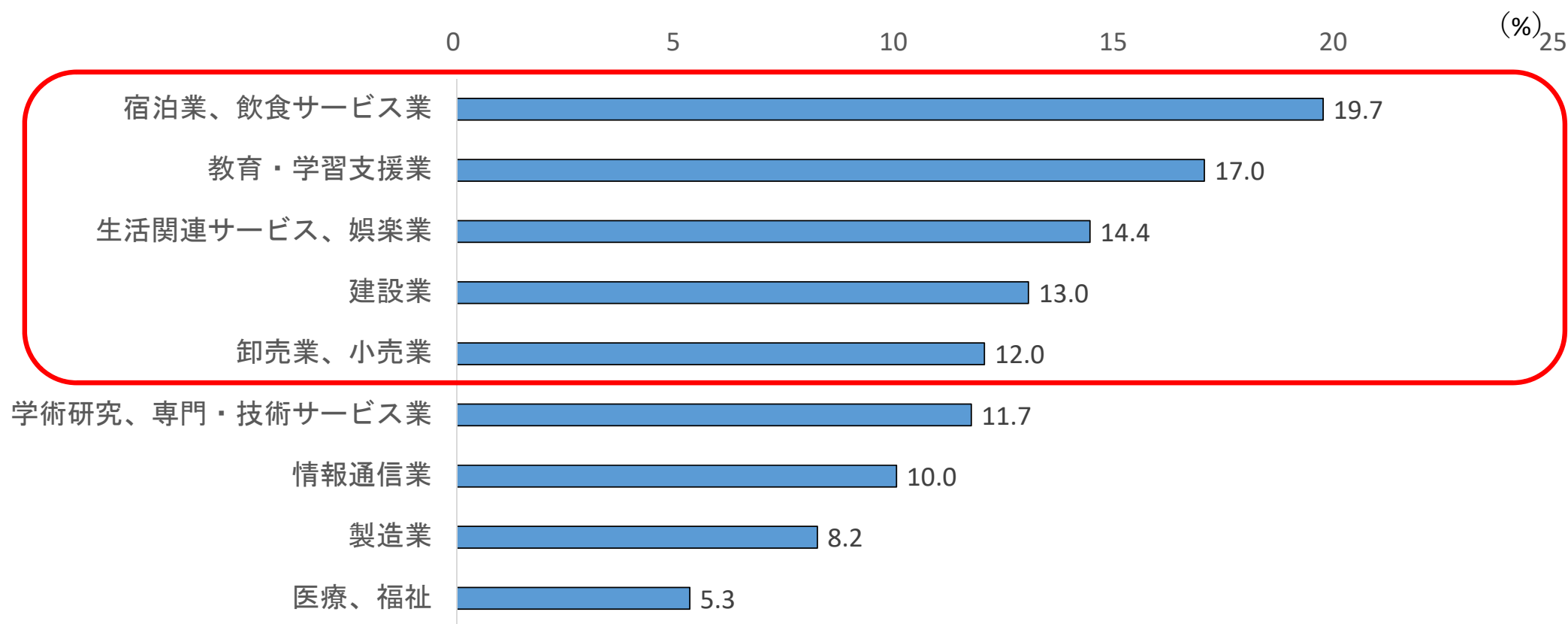
(%)



資料出所 総務省「労働力調査」(2018年)

### 3 女性が働く産業の課題

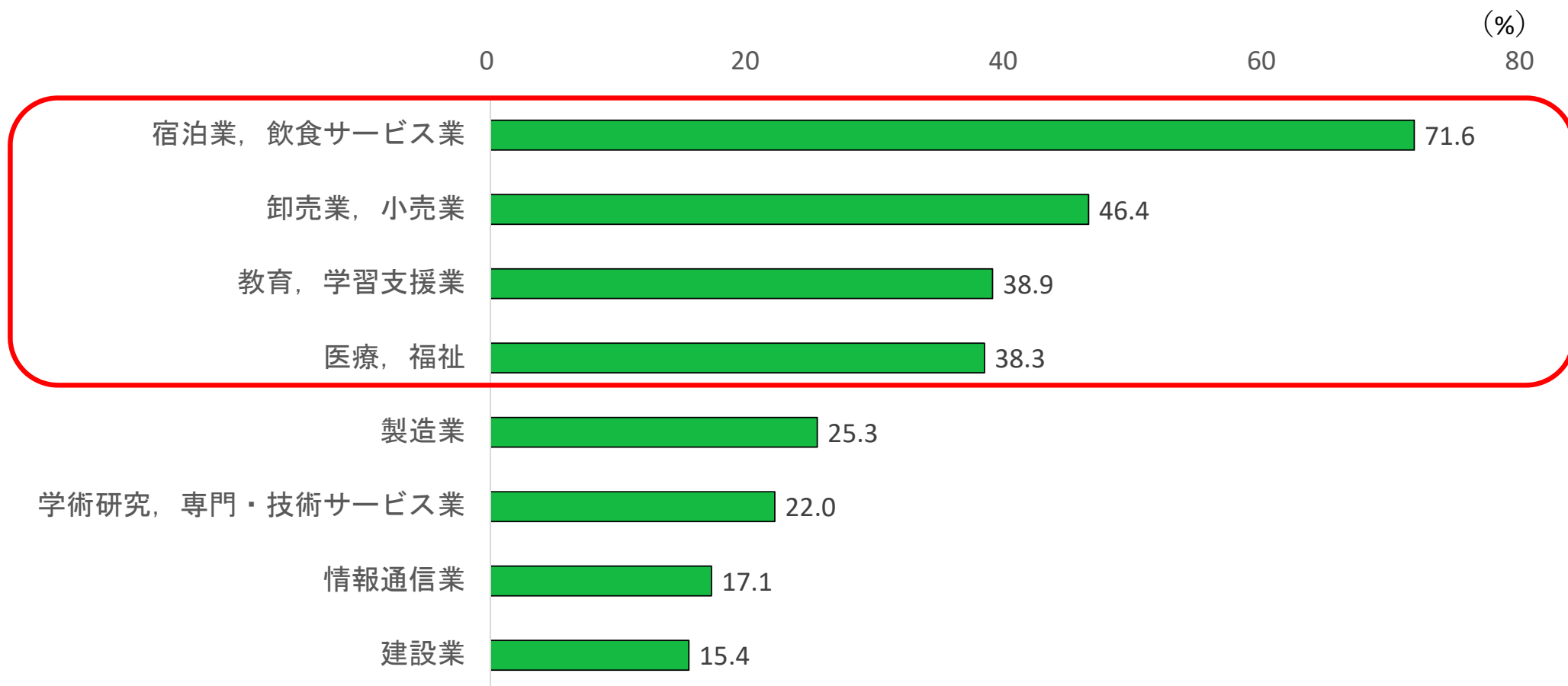
産業別 週60時間労働者割合  
～女性比率の高い「宿泊・飲食」「教育・学習支援」「生活関連・娯楽」  
「卸売・小売」は製造業に比べて長時間労働者の割合も高い～



資料出所) 「労働力調査」(総務省 2016年) 『平成29年度労働経済白書』(厚生労働省2017) をもとに作成

### 3 女性が働く産業の課題

産業別 非正規雇用割合  
～女性比率の高い「宿泊・飲食」「卸売・小売」「教育・学習支援」  
「医療・福祉」は製造業に比べて非正規雇用割合も高い～

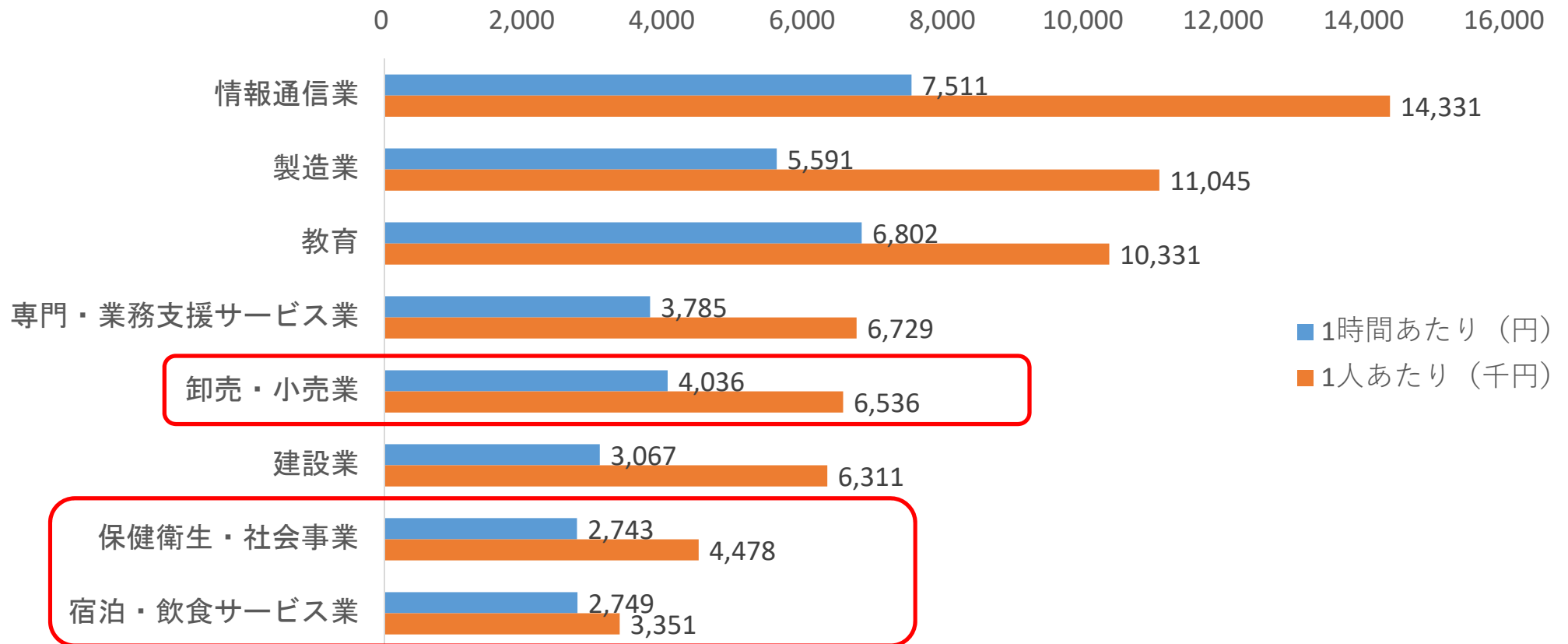


資料出所) 「平成29年就業構造基本調査」 (総務省 2017年)



### 3 女性が働く産業の課題

産業別 名目労働生産性 (2017年)  
～女性比率の高い「卸売・小売」「保健衛生・社会事業」  
「宿泊・飲食」は製造業に比べて稼ぎにくい～



日本生産性本部「主要産業の労働生産性水準」をもとに筆者作成。  
労働生産性は内閣府「国民経済計算」をもとに日本生産性本部で算出。

# まとめ

日本の男性の「働きすぎ」の背後にある稼得役割意識

⇒現代でも根強いことが、母親の労働参画と父親の育児参画を阻害

◎家庭における経済的役割と育児役割を分離せず、

〈女性の労働参画による稼得力向上→男性の稼得役割軽減→男性の育児参画→女性のさらなる労働参画〉という循環をつくることが重要

⇒だが、女性が多く雇用されている非製造業は、

(男性の経済力を支えてきた) 製造業に比べて稼ぎにくい

⇒女性が経済的に自立・安定できる産業社会の構築が課題